

## 2019年日本地理学会秋季学術大会

今年の日本地理学会秋季学術大会は9月21日（土）から9月23日（月）まで新潟大学の五十嵐キャンパスで開催された。今回の大会では、一般の口頭発表で自然系・人文系を合わせて90を超える報告があったほか、シンポジウム（3件）、公開講座（1件）、ポスター発表（40以上、数は要旨集掲載分による）などもあり、全体としてかなり盛会であった。人口に関する発表としては、口頭発表のなかで「人口」と題された時間帯に、当研究所の小池司朗・人口構造研究部長らによる東京圏出生者割合に関する研究など、4件の発表が行われた。またそれら以外にも、観光と地方創生、都心部の地域変容などに関連する報告が複数あり、地域人口の研究を行う者にとっては総じて有意義な大会になった。（清水昌人 記）

## オランダ経済政策分析局レクチャー

2019年9月24日に、オランダ経済政策分析局（CPB Netherlands Bureau for Economic Policy Analysis）から若手研究者18名が来所され、所内第4会議室において人口と社会保障についてのレクチャーを行った。午後2時から6時までの長丁場となったが、質疑応答も活発に行われるなど関心の高さがうかがわれた。なお、このレクチャーは社人研プロジェクト「長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究」の一環として行われた。

当日のプログラムは以下のとおり。

「Opening Remarks」 泉田信行・社会保障応用分析研究部長

「Overview of population ageing in Japan」 林玲子・国際関係部長

「Mortality decline and longevity in Japan」 別府志海・情報調査分析部室長

「Pension policy challenges for Japan: an overview」 中田大悟・創価大学経済学部准教授

「Poverty in Japan」 渡辺久里子・企画部研究員

「Population health in Japan」 林玲子・国際関係部長

「Policy changes in health and LTC system in Japan」 菊池潤・社会保障基礎理論研究部室長

「Closing Remarks」 林玲子・国際関係部長

（別府志海 記）

## 地域生命表に関する国際ワークショップ（International Workshop on Subnational Life Tables）における研究報告

死亡データベースプロジェクト（Human Mortality Database project, HMD）は、国際比較及び地域比較が可能な死亡に関する精度の高いデータを収集することを通じて、先進国における死力転換のパターンと要因及びその帰結を解明することを目指すものである。HMDはカリフォルニア大学バークレー校とドイツ・マックスプランク研究所によって2000年に開始されており、既に20年近い歴史がある。日本からは石井太氏（前人口動向部長）も参画しており、当研究所もHMDの黎明期から積極的に国際的な知の蓄積に貢献してきた。また、当研究所においては、HMDと整合性をもち、わが国の生命表を死亡研究に最適化して総合的に再編した死亡データベース「日本版死亡データベース」を、人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的

研究」(平成23～25年度)、「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」(平成26～28年度)、「長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究」(平成29～31年度)の一環として、構築・提供してきたところである。

そのHMDの成果報告及び今後の課題と展望を探るための国際ワークショップが2019年10月15日～10月17日の日程でオーストラリアの首都キャンベラにおいて開催された。HMDには現在のところ①死因別データ、②地域別(等の一国を細分化したグループの)データの整理収集と蓄積という2つの課題や方向性がある。この2つのうち前者を対象としたシンポジウムは2019年5月に開催されており、「第5回人類死亡データベースシンポジウム」(林玲子記『人口問題研究』第75巻第3号、2019年9月)に報告された通りである。そして、後者にフォーカスしたのが、今回の国際ワークショップである。なお、今回のワークショップは“Subnational”と題されており、必ずしも「地域」生命表を対象とするものではなく、一国の人口集団を細分化したグループの生命表に関するものであるものの、系統的なデータの入手可能性から「地域」がその中心であることからここでは便宜上「地域」の訳を用いた。

3日間の会期中に、7つの口頭報告セッションで行われた28報告を中心に、会議では「地域生命表の開発」「死亡推定」「小地域の死亡」「予測」「死亡モデルとその評価」「R言語によるプログラミングと新しい方向」といった地域別生命表に関連した話題が包括的に編成されており、いずれにおいても、欧州地域を中心とする約60名の間で、活発な研究交流が行われた。当研究所からは菅桂太(人口構造研究部室長)が参加し、“Japanese Regional Human Mortality Database: Current State and Challenges”(石井太慶應義塾大学教授、別府志海情報調査分析部室長との共同研究)について研究報告を行った。

本ワークショップの詳細はインターネット

(<https://demography.cass.anu.edu.au/events/international-workshop-subnational-life-tables>)  
に掲載されている。(菅 桂太 記)

## G20保健大臣会合サイドイベント アジア健康構想(AHWIN)フォーラム

2019年10月17日(木)午後、東京都中央区日本橋のマンダリン・オリエンタルホテルにて、G20保健大臣会合サイドイベント「AHWINフォーラムーアジアにおける高齢者ケアを描く:あるべき健康長寿社会とは」が開催され、筆者は第2セッションのモデレーターとして参加した。アジア健康構想(AHWIN)に関わる、アジア各国の高齢者介護担当者・専門家が集い、地域に根差した認知症予防、高齢者の健康の変遷、介護人材の確保といったテーマに関して報告、討議が行われた。フォーラムの内容は<https://www.ahwin.org/posts/ahwinforum-achievinghealthyaginginasia>に掲載されている。(林 玲子 記)

## 地理情報システム学会第28回研究発表大会

地理情報システム学会の第28回研究発表大会は2019年10月19・20日の日程で徳島大学常三島キャンパスにて開催された。一般口頭報告91報告、ポスター報告が65報告の他に、企画セッションが9テーマ、国際シンポジウムが4セッション、実際にGISの使い方を学ぶハンズオンセッションが5本、その他に機器展示があるなど多彩な企画による大会となった。本学会は、災害対応・防災、交通ネッ